

※価格は商品1点の総額(本体価格+消費税)

◆石巻ふれあい朝市

12月までの第1・3日曜7:00~各店売り切れまで
※8月は11日(日)と21日(日)、10月は2日(日)のみ



石巻市を中心に女川町や南三陸町などから出店がある、開催19年目を迎

える朝市。港町らしく筋子やたらこ、塩うに、塩辛といった水産加工品が充実。「殻付き蒸しホヤ」は酒のつまみやおやつにいかが。
野菜や果物、生花なども並び、多くの人でにぎわう。8:00ぐらいには売り切れることが多いので早めの来場がお勧め。会場には駐車場がないので、公共交通機関か周辺の有料駐車場を利用のこと。

会場/ロマン海遊21前 (JR石巻駅前)
問/石巻観光協会
TEL0225-93-6448

◆^{こけ}苔玉作り体験

趣味やインテリアとして最近人気が高まっている苔玉の手作り体験ができる。「苔寺」とも呼ばれる円通院に隣接する飲食スペース「洗心庵」が会場。

手のひらサイズの観葉植物を2種類選び、その根元の土を丸く成形し、茶色い水苔で覆う。その上に緑色の苔を付けて、テグスで巻いたら完成だ。



体験は30分程度で、費用は1500円。随時、受け付けているが定員が10人程度のため、団体の場合は電話で予約するのがお勧めだ。

会場/お食事とおみやげ処 洗心庵
松島町松島67
TEL022-354-3205
受け付け時間/10:00~12:00、13:00~16:00

◆Artgallery 杜



「アートを通して人と人をつなぐ」をコンセプトに、閑静な住宅街に今春オープンしたアートギャラリー

。展示内容は定期的に変わり、スケジュールは公式HPで公開している。6月24日(金)~26日(日)、7月1日(金)~3日(日)は仙台市在住の写真家・菊田菊夫さんによる花火の写真展「華美〜夜空を彩る千紫万紅〜」が行われる。敷地内のカフェスペースでは、有機栽培のコーヒーを提供している。入場無料。

仙台市泉区明石南2-5-5
TEL080-9333-0061
営/金~日曜10:00~17:00
休/月~木曜(月曜が祝日、休日の場合は開館)

ある日どこかで (1980年/ジュノー・シュウォーク監督)
リチャード(クリストファー・リーヴ)は大学で処女劇作を上演。大好評のうちに終演し、祝杯を上げていくと、見知らぬ老婦人が金の懐中時計を手渡し「私のところに帰ってきて」と言っ去ります。
老婦人は湖畔の「グランド・ホテル」に宿泊し

いつでも恋は切なく悲しい
今回は、恋愛映画の中から少し変わったものを選びました。それぞれの映画を彩るのは、言葉以上に伝わる音楽です。
人が人を好きになるのに、理由はないのです。

旅に出て「グランド・ホテル」に泊まるリチャード。ホテルの資料室で、美しい女優エリーズ・マツケナの写真と出会い、一目で心を奪われてしまいます。
図書館で調べると、エリーズの晩年の写真が見つかりますが、それは8年前、懐中時計を渡してきた老婦人でした。リチャードが時を超えて若いエリーズに会いに行き

●ある日どこかで
発売・販売元/ジェネオン・ユニバーサル・エンターテイメント
DVD1429円(税抜き) 発売中
©1980 Universal Studios. All Rights Reserved.

●恋
発売・販売元/下松フィルム・コミッション
DVD2000円(税込み) 発売中
※DVDの取り寄せ・注文は、スターナビくだまつHP内専用ページ
(http://starnavi.net/kfc/ko/index.html) またはTEL0833-45-1192で受け付けている
©2014下松フィルム・コミッション



丹野 六右衛門
塩釜市在住、69歳。
映画サークル「遊々シアターフレンズ」代表

エリーズがリチャードを見つめてほほ笑んだ写真だから、心奪われたのです。とても不思議な気持ちになる切ない映画です。

恋 (2014年)
長澤雅彦監督

山口県下松市の市制施行75周年記念で制作された映画です。
新幹線をはじめ、鉄道車両を製作するものづくりの会社が立ち並ぶ下松市。鉄道車両の溶接工の昭男(伊藤洋三郎)は妻をがんで亡くし、娘に見合いを勧められても乗り気になれません。それは、会社の食堂で働く咲子(岡田奈々)に心引かれていたからでした。
ときどき話しても気持ち打ち明けられない昭男は、通っている俳句教室に咲子を誘います。二人の距離は少しずつ近づきますが、急に咲子は入院してしまいます。
下松市の花岡地域の白きつね伝説に由来する「稲穂祭」のきつねの嫁入り行列。昭男、昭男の娘、そして咲子にも、この行列にまつわる、それぞれの秘密があり、それは、幸せを暗示するものでした。

中年の男女の恋の行方がとても静かに描かれ、少年の頃の恋する切ない気持ちやよみがえる、心の琴線に触れる映画です。それを彩る、清塚信也の素晴らしいピアノ曲が言葉よりもさらに胸に染みってきます。